

溶接学会 若手会員の会



若手会員の会 活動報告

HP アドレス <https://jweld.jp/support/wakate-welnet/>E-mail アドレス [welnet@m1.circle.ne.jp](mailto:welnet@m1.circle.ne.jp)

## 若手会員の会 運営委員会 新委員長就任挨拶

委員長 山下 正太郎 (大阪大学)

Policy speech of the new chairman of the WELNET steering committee

by YAMASHITA Shotaro

2024年度4月より溶接学会 若手会員の会運営委員会の委員長を仰せつかりました山下正太郎と申します。2017年4月より運営委員会に参加させていただき、微力ながら活動に参加して参りましたが、本年より2年の間、委員長という大役を仰せつかることとなり、ここからさらに気持ちを新たにして本会の活発化を図るべく努力して参ります。特に、学会全体の活発化には将来的な人材確保という意味で、これからの若手会員の活動が欠かせないものと考えていますので、諸先輩方より一層のご指導・ご鞭撻含め、ご協力のほど何卒よろしくお願ひ申し上げます。

2020年のCOVID-19の流行に端を発し、社会全体の活動形態が大きく変わったと表現できるかと思いますが、これは本会においても同様であったと認識しています。旧態依然とした悪き慣習が最適化されるだけにとどまらず、人の繋がりにおいて欠かすことのできない文化までもを含めて変革を余儀なくされたことは非常に残念であったと感じております。その状態からようやく抜け出せる気運にある今だからこそ、将来的な学会全体の活発化を目標として、産官学の連携を意識した（基本に忠実に）若手研究者のネットワーク形成・活動の活発化を図っていきたいと考えています。

本年から改めて力を入れていきたいのは、若手会員の会主催の「研究会・施設見学会」であります。コロナ下で、オンラインによる活動を余儀なくされたのですが、前委員長より研究会・施設見学会の対面開催を徐々に取り入れ、本年より完全対面での開催とする方向でおります。ものづくりの周辺技術について工場見学をし、その場をお借りして若手研究者間で研究会を行うという非常にシンプルな活動です。発表内容などは研究途中で構いません。若手研究者同士で顔を突き合わせて、同じ画面を見て、同じ課題について考え合うことが大事であると考えています。一口に溶接とい

っても、その中には多くの学問領域が存在しています。ただし、エンジニアリングとしての課題解決として捉えた場合、それらを絶妙に繋げる、重畳させることで解決可能なケースが多くあると考えています。研究が上手くいった例もそうですが、上手くいっていない例も含めて、皆で情報共有する機会を設けて、溶接研究を盛り上げて行きましょう。

出前講義や学会への高校生・高専生などの招待などにも力を入れて活動したいとも考えています。生産技術としての溶接の重要性の高さに対して、溶接技術を学生に認識してもらえていないことは、双方に損をしている状況ではなかろうかと思ひます。そこで、高校や高専に赴いて、溶接研究領域に関して出前講義を実施して、より多くの方に溶接を知って貰えるように活動をして行きたいと考えています。また、学会のポスター発表などへと高校生・高専生を招待し、学会に集ったエンジニアの方々と触れ合う機会を設けることで溶接の魅力を伝えたいと考えています。特に、ディスカッションをすることの面白さについて気付いてほしいと考えています。

想いを綴るところではないかもしれませんが、学会の基盤は人と人の世代を超えた連続的な繋がりだと考えていますし、それが将来的な活動に通ずると考えています。それを見据えて可能な限り努力して参りますが、一人でやれることは限られており、皆様のお力添えなくては成せない目標かとも考えています。研究会・施設見学会、学会誌活動、出前講義、高校・高専生のポスター発表などへのご協力に対して、ご無理を申し上げることもあるかと存じますが何卒よろしくお願ひ申し上げます。簡単ではございますが、若手会員の会の更なる活発化に寄与することを決意し、委員長の挨拶とさせて頂きたく、これから2年あまり何卒よろしくお願ひ申し上げます。